

SAPPORO VISION

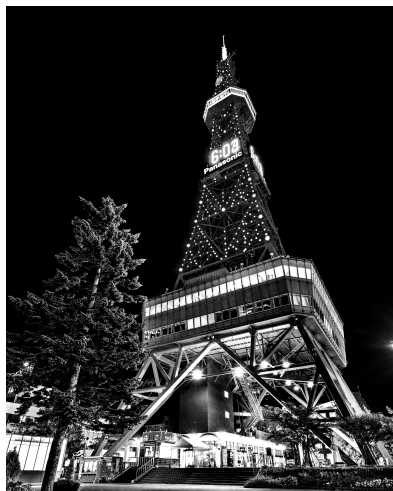


一般社団法人札幌青年会議所 2015年度

Sapporo Vision

2015

CONTENTS



Contents

01	未来のサッポロを創造する
02	第1章 はじめに
02	1. 策定の背景と趣旨
02	2. これまでのまちづくりとこれからのまちづくり
03	第2章 札幌の現状と課題
03	1. 超高齢社会
04	2. 超高齢社会の要因
04	3. 超高齢社会の問題点
05	4. 問題解決に向けた展開
06	5. 超高齢社会へ対応するための解決策
09	第3章 サッポロビジョン
09	1. サッポロビジョンとは
09	2. 目的
09	3. 基本理念
10	第4章 サッポロビジョンの推進に向けて
10	1. 基本姿勢
10	2. サッポロビジョンの推進に向けた手法
13	第5章 札幌版CCRC
13	1. CCRC
14	2. 札幌版CCRC
15	3. ミニストーリー「2030年のサッポロ」
16	4. 札幌版CCRC基本機能
17	第6章 アクションプラン
17	1. 事業者（企業）
18	2. 自治体（行政）
19	3. 大学
19	4. 住民（市民）
20	5. 札幌青年会議所
21	第7章 おわりに

001

It will create the future of Sapporo

未来のサッポロを創造する

いまから15年後の2030年、そう遠くない未来、社会構造は、大きく変化することが予想される。団塊世代は80歳以上となり、後期高齢者の割合がいまより倍増し、高齢者が人口の3分の1を占める社会が間違いなく訪れる。15年という時間は非常に短いものであり、その短い時間の中で大きな社会における変化を乗り越え、「明るく豊かな社会」を実感できる方法を我々は探し出さなければならない。しかも、超高齢社会にかかる問題は一つひとつが独立したものではなく、様々な形で互いに深く関わっている。したがって、問題を解決していくためには、市民の思いがひとつに合わさり、立場や分野を超えた連携が、新たな価値を生み出していく流れを創り出さなければならない。

我々は、未来に向けたよりリアルなビジョンを策定し、大胆な発想で運動を展開し、市民の思いをひとつにしていく役割を担っている。また、異なる立場や分野の人々が互いにどのように連携していくのかという、道しるべを描いていかななければならない。問題を先送りせず、社会の力を集めて未来ビジョンを共有することができたとき、未来のサッポロの扉は開かれる。



一般社団法人札幌青年会議所

第64代理事長 田崎 秀明

第1章 はじめに

01 Background and spirit of development

策定の背景と趣旨

15年後の2030年には社会構造は大きく変化することが予想され、後期高齢者の割合がいまより増加し、高齢者が人口の3分の1を占める社会が訪れます。超高齢社会にかかる人口減少、労働力・地域力の低下、財政悪化の問題は一つひとつが独立したものではなく、様々な形で互いに深く関わっており、それらの問題に対応するまちを創出するには、異なる立場や分野の人々が連携し、想いをひとつにして問題に向かわなければなりません。そのためには市民一人ひとりが想いをひとつにし、ビジョンの実現に向け行動する必要があります。

02 So far of town planning and the future of urban development

これまでのまちづくりとこれからのまちづくり

これまでのまちづくりは、自治体による公共事業として行政が担ってきました。その結果、画一的なインフラ整備や箱ものづくりが多く地域において行政主導で行われてきました。行政からのトップダウンでのまちづくりでは、市民が受身となり、暮らしの本質を見据えたまちづくりは行われてきませんでした。そうした中、近年ではこれまでの行政主導で進められてきたまちづくりについて見直そうという動きが強まっています。地域が抱える問題は行政だけでは解決できないものが増えてきていることが見直しの大きな要因となっています。これからのまちづくりは行政だけでなく、多様な価値観に基づき、様々な分野で活動している各主体と連携していくことで、より良いまちづくりが実現できると考えます。また、住民相互のコミュニティ意識を醸成することにより、コミュニティを中心にまちは継続的に維持、管理され、豊かな暮らしの場として発展していくことができます。

第2章 札幌の現状と課題

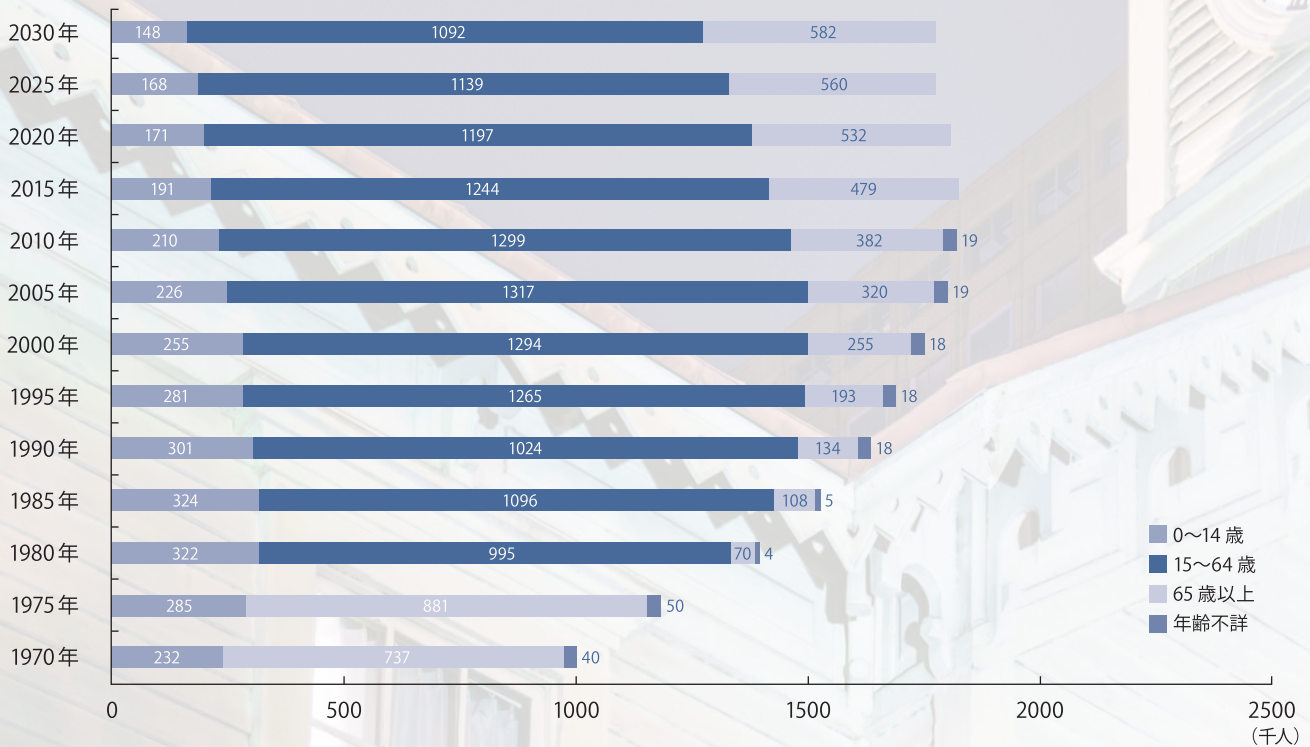
01

Super-aged society

超高齢社会

総人口に対して65歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率といい、世界保健機構（WHO）や国連によると、高齢化率が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」と定義付けられています。日本は1970年に高齢化社会へ、1994年には高齢社会へととなりました。そして、2007年には高齢化率が21.7%になり、既に超高齢社会となっています。では、現在の札幌はどのようになっているのでしょうか。札幌の各年齢層の割合は、平成26年10月1日現在の住民基本台帳によると0～14歳が11.6%、15～64歳が64.8%、65歳以上が23.6%となっています。札幌も紛れもなく超高齢社会となっているのです。このままでは2030年には65歳以上が32.0%となることが想定されます。

札幌市年齢構成比の推移



<参考資料> 国勢調査（2005年まで）国立社会保障・人口問題研究所推計値（2010年以降）より抜粋

02

Factor of super-aged society

超高齢社会の要因

2030年にさらに超高齢社会となる要因としては、少子化と高齢者の転入があります。少子化は世帯収入の減少により、安心して子供を産み育てる環境が整っていないことに起因しています。子育てと仕事の両立ができる環境を作ることによって女性の社会進出を促進し、世帯収入を増加させることが必要です。高齢者の転入が多いことについては、札幌が高齢者にとって医療や利便性の面から住みやすいまちであることに起因しています。高齢者にとって住みやすいまちということは悪いことではありませんが、高齢者が多く転入することに対応するまちづくりをしていくことが求められます。

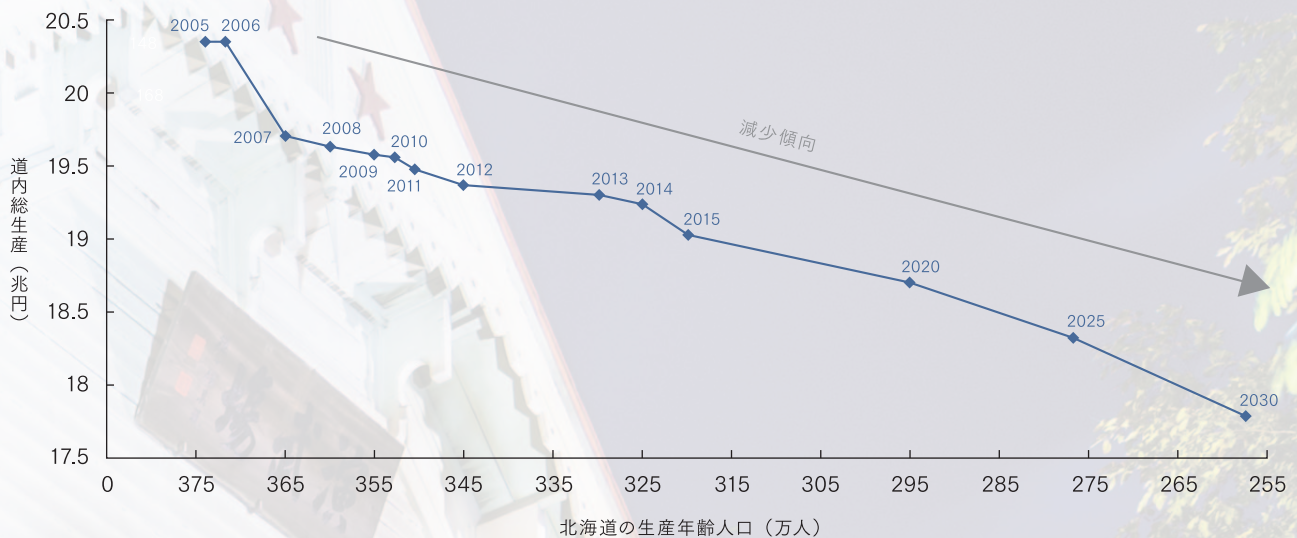
03

Problem of super-aged society

超高齢社会の問題点

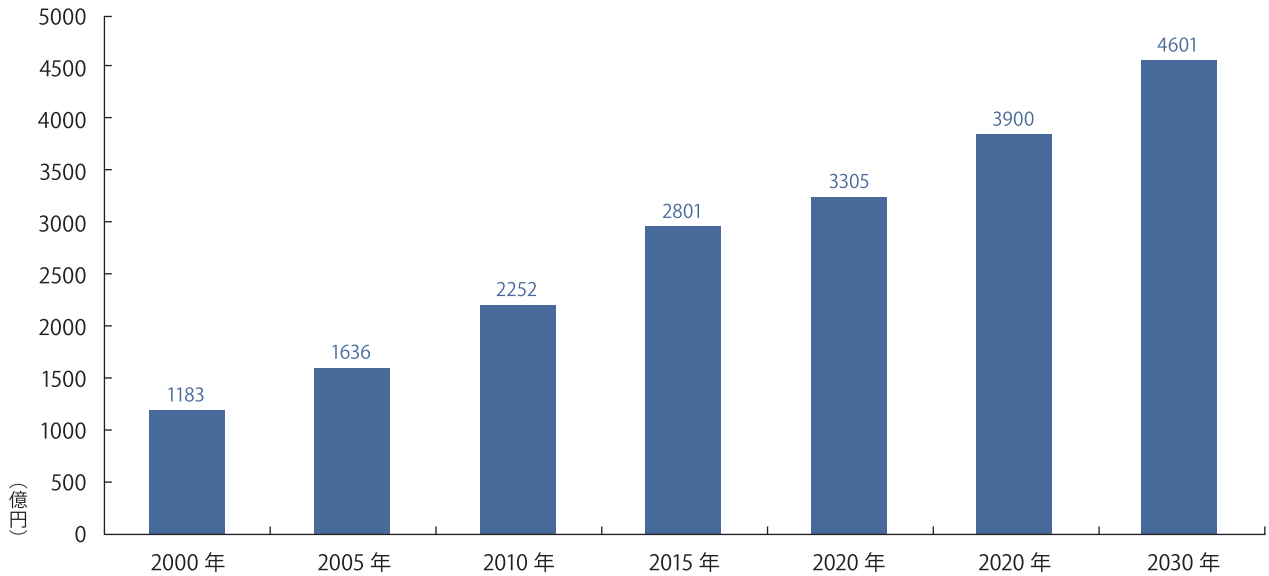
超高齢社会になるとどのような問題が出現してくるのでしょうか。このまま超高齢社会が進行すると札幌市の財政が悪化していきます。具体的には、労働力人口の減少により産業が衰退し、税収が減っていきます。また、産業が衰退すれば雇用がなくなり、若者が札幌市外へと転出していきます。若者が転出すると消費が減り、さらに産業が衰退し、税収がまた減少するという負のスパイラルに陥ります。そして、雇用がなくなることによる生活保護費の増大や高齢者人口増加による医療費、介護費の更なる増加が札幌市の財政を圧迫します。

北海道の生産年齢人口と道内総生産



<参考資料> 札幌市「(仮称) さっぽろ未来創生プラン」(2012年まで)より抜粋

札幌市扶助費推移



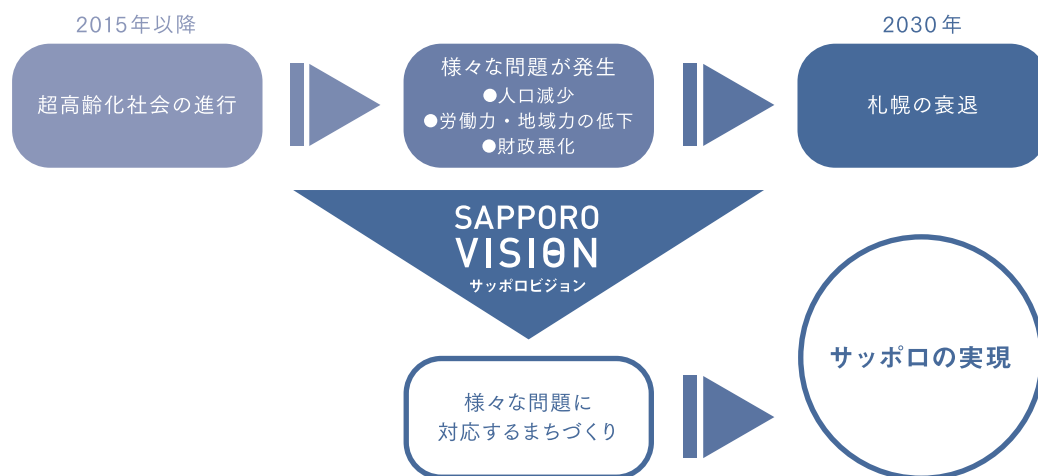
<参考資料>札幌市HPより抜粋(2015年以降札幌青年会議所調べ)

04

Deployment aimed at solving problems

問題解決に向けた展開

超高齢社会が進行することにより、前述した問題を代表とする様々な問題が発生していきます。それらの問題に対応しなければ、2030年には私たちが住む札幌は衰退していくことが想定されます。そのような未来から脱却するためには、今後発生する様々な問題に対応するまちをビジョンとして掲げ、ビジョンの実現に向け、想いを一つにしたまちづくりを展開しなければいけません。



05

Solutions for corresponding to the super-aged society

超高齢社会へ対応するための解決策

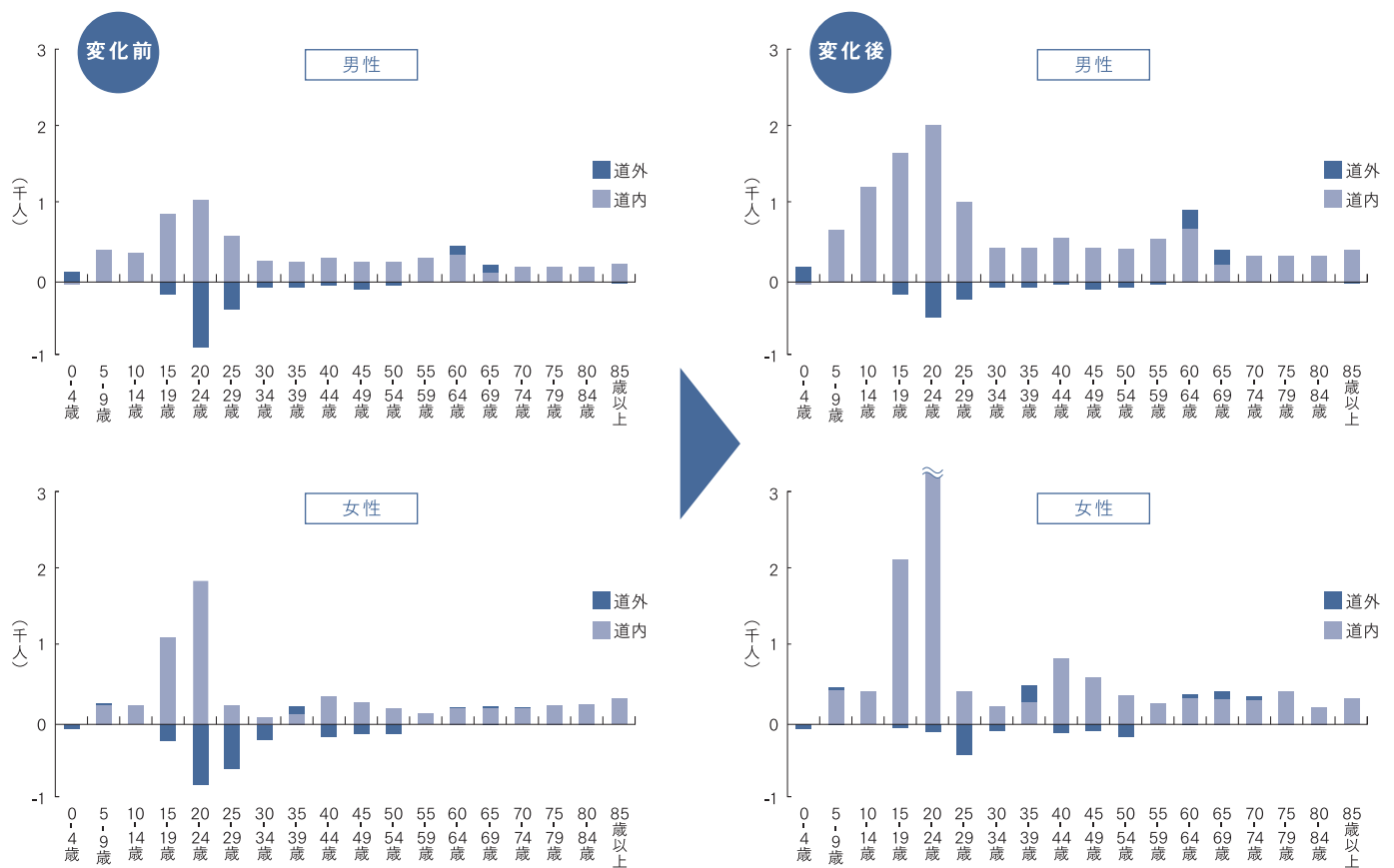
① 高齢者について

転入や加齢により今後も増える高齢者には健康維持・増進を図ることで、医療費や介護費の抑制に努めてもらうと共に、社会の担い手として仕事や子育て支援に従事する環境を整えることが必要です。そのことにより、扶助費の削減や消費による税収増が期待できます。

② 若者について

進行する超高齢社会の中で、下記表から男性15～29歳、女性15～34歳の範囲で転出者が多い傾向がわかります。今後は若者の雇用を創出することにより若者の転入を促進し、若者の転出を抑制することが必要です。これにより労働力人口が確保され、産業の衰退を食い止めることができます。また、産業が発展することで若者の消費増や企業の収益増により、当団体調べでは2030年には現在より約110億円の税収増が期待できます。

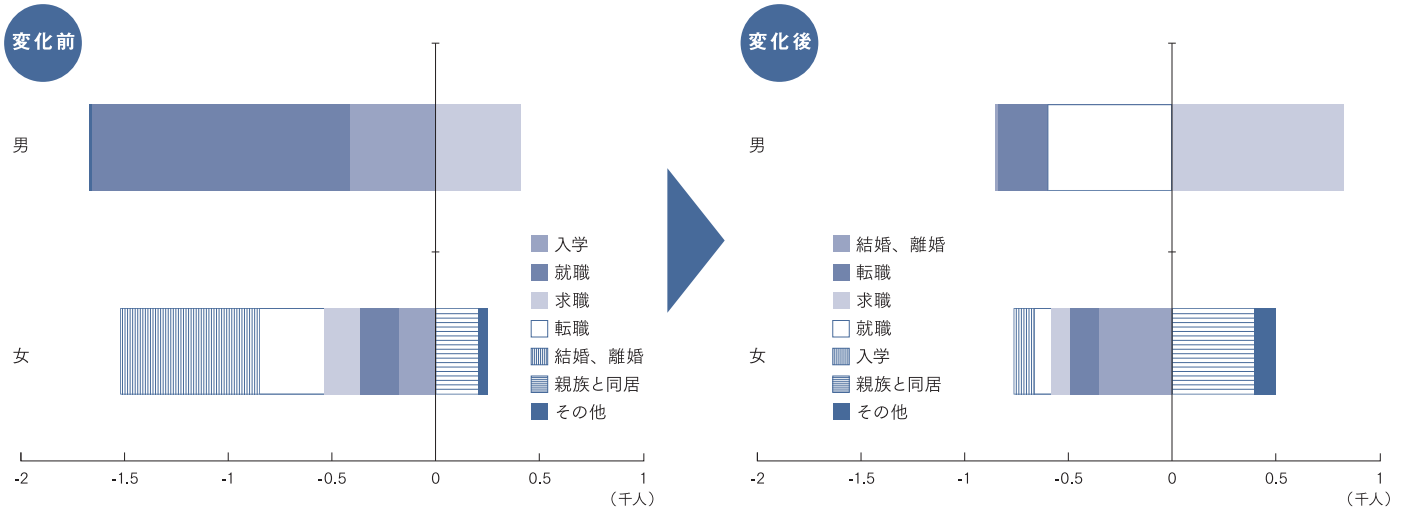
男女、道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（2014年度）



<参考資料> 札幌市「(仮称)さっぽろ未来創生プラン」より抜粋

札幌青年会議所調べ

男女、移動理由別20～29歳の道外転入超過数（2014年度）



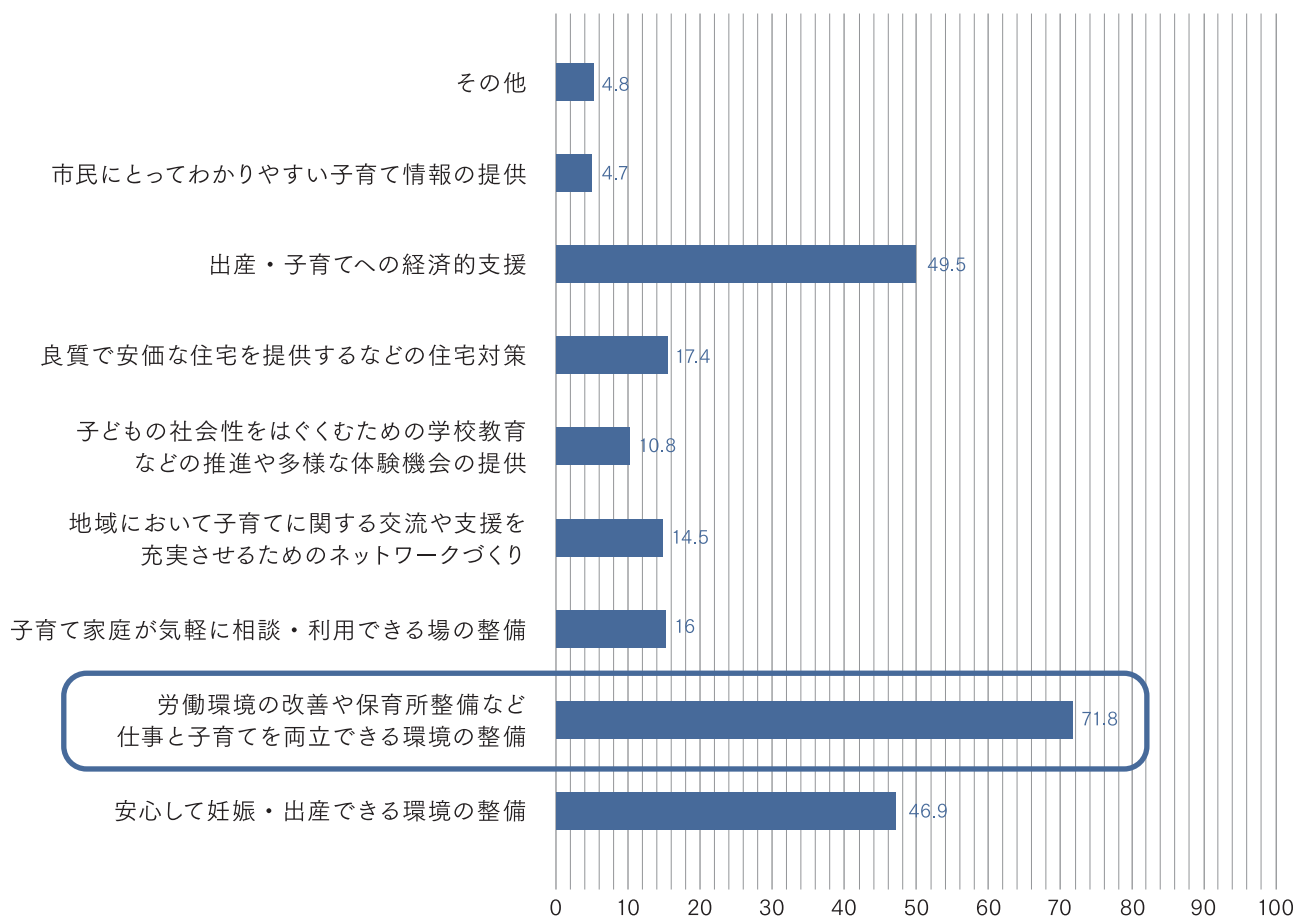
<参考資料>札幌市「(仮称) さっぽろ未来創生プラン」より抜粋

札幌青年会議所調べ

③ 女性について

労働人口が減少する中で女性が働くことにより、労働人口の確保を目指します。しかしながら女性が子育てと仕事の両立をすることは現状なかなか難しい状況です。そこで、子育て支援や保育施設の活用で女性の社会進出を促す必要があります。これにより、女性の消費増での税収増が期待できます。

札幌市において有効と思われる子育て対策



<参考資料> 札幌市「市民アンケート」より

第3章 サッポロビジョン

01 What is Sapporo vision?

サッポロビジョンとは

サッポロビジョンとは、2030年の理想の札幌の姿を指し、異なる分野や立場の人々と連携して高齢社会、人口減少、労働力・地域力の低下、財政の悪化の問題に対応するまちに導く道しるべとして共有するものです。

02 Purpose

目的

サッポロビジョンは異なる分野や立場の人々と連携して高齢社会、人口減少、労働力・地域力の低下、財政悪化の問題に対応するまちに導く道しるべとして共有し、高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができるまち、若者に希望ある仕事への就業機会があるまち、また高齢者と若者との他世代交流によって地域コミュニティのつながりを生み出し、子育て支援等で女性が能力を発揮できる就業機会があるまちを一体的に創出することを目的とします。

03 Idea of foundation

基本理念

サッポロビジョンは次に掲げる事項を基本理念として行います。

① 高齢者

高齢者が安心して暮らせる住まいや、充実した介護サービスを受けることができ、生きがいや目標をもって生き生きと社会活動に参加することができるよう環境の整備を図ること。

② 経済

経済では新たな市場の開拓によるビジネスチャンスを生み出すことで、経済活性化や雇用創出ができるよう環境の整備を図ること。

③ 若者

若者が将来への期待感をもつことができるよう魅力ある就業機会の創出を図ること。

④ 女性

女性が子育てと仕事の両立ができ、自己の能力を発揮できるよう環境の整備を図ること。

第4章 サッポロビジョンの推進に向けて

01 Basic stance

基本姿勢

サッポロビジョンの推進に向けては、住民・企業・大学・NPOなど異なる価値観をもった人々との「協働」が必要になってきます。「協働」とは複数の主体が同じ目標に向かって、共に力を合わせて活動することを意味します。また、住民が自らのまちのことは見直す機会をもち、真剣に考えることで、住民のなかにまちの担い手としての自覚と責任が生まれ、住民相互のコミュニティ意識が醸成されていきます。

02 Technique for promotion

サッポロビジョンの推進に向けた手法

①日本版CCRC

継続したケアという理念からアメリカで発生したシステム。日本版CCRCは、高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができ、多世代のための担い手となることを基本とするコミュニティを指します。

I. 仕組み

- i. 居住者・・・健康の維持・増進に向けた支援体制／地域に開かれた多世代共創型コミュニティ
- ii. 事業者・・・長生きリスクから健康インセンティブへの転換／創造型需要の創出／ストック活用による多様な商品開発
- iii. 行政・・・縦割り型からの転換／医療・介護費の適正な抑制
- iv. 大学・・・卒業生の雇用創出／新たな大学モデルの構築
- v. 市民・・・コミュニティの構築／協働による互助のビジネスモデル

II. 効果

- i. 高齢者・・・充実した高齢者向けサービスにより、安心して暮らすことができる／多世代交流により、生きがいと目標をもって生き生きと暮らすことができる。
- ii. 経済・・・新たな経済モデルの創出により、経済の好循環につながる／遊休施設の有効利用により、まちの活性化につながる。
- iii. 若者・・・就業機会の増加により、若い世代の雇用が生まれる。
- iv. 女性・・・保育施設の増加により、女性の社会進出が容易になる。

② 地域包括ケアシステム

「いつまでも自宅で安心した生活が送れるまち」「いつまでも元気で活躍できるまち」を目指し、高齢になっても、住み慣れた地域で、人間関係や生活環境を変えずに暮らし続けられるシステムを指します。

I. 仕組み

- i. 在宅医療・・・病気になっても住み慣れた家で暮らすために、介護保険サービスと医療サービスを充実させる
／在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築／在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携／情報共有システムの構築／市民への啓発、相談・支援／中核拠点の設置
- ii. 生きがい就労・・・地域課題の解決のために、高齢者が培ってきた経験と知恵を借りながら働く場を提供させる。
／農業での就労／生活支援／子育て／食堂／福祉

II. 効果

- i. 高齢者・・・充実した高齢者向けサービスにより、安心して暮らすことができる／就業機会の増加により、
／生きがいと目標をもって生き生きと暮らすことができる
- ii. 経済・・・既存の経済モデル内でのシステムのため、大きな経済効果は発生しない
- iii. 若者・・・高齢世代の就業機会の増加により、若い世代の雇用が縮小される
- iv. 女性・・・保育施設の増加により、女性の社会進出が容易になる

③ 国際的ビジネス環境・シティセールス

札幌市全体の人口減少による札幌経済の縮小、生産年齢人口減少による人材不足を解消するために、外国企業及び高度外国人材を呼びこみ、札幌の国際化を促進することで、都市全体の魅力・ブランド力を高めるまちづくりを指します。

I. 仕組み

- i. 人材・・・外国企業及び高度外国人材を呼びこむと共に、国際的な視野をもった人材を育成する／海外ネットワーク、誘致・受入体制の構築／グローバル人材の育成
- ii. 環境整備・・・国際的な業務施設・公共空間・公共交通のネットワークを充実させる／国際水準の業務施設の整備／生活インフラの整備／交通インフラの整備
- iii. ブランド・・・観光地としてだけでなく、ビジネスの場としての知名度を向上させる／観光都市としてのPR／ビジネスの場としてのPR

II. 効果

- i. 高齢者・・・変化しない。
- ii. 経済・・・国際競争力の向上により、経済の好循環につながる／ビジネスの場としての知名度の向上により、
経済の好循環につながる。
- iii. 若者・・・外国人留学生の増加により、大学等の高等教育が向上する。
- iv. 女性・・・変化しない

手法と分野における効果の有無

	日本版 CCRC	地域包括ケアシステム	国際的ビジネス環境 シティセールス
高齢者	○	○	△
経済	○	△	○
若者	○	×	○
女性	○	○	△

上記表より、当団体ではサッポロビジョン実現に向けた手法は日本版CCRCが最適であるとして提案いたします。

第5章 札幌版CCRC

01 CCRC

CCRC

CCRCとはContinuing Care Retirement Communityのことで、「継続したケア」という理念に基づいて、加齢と共に移り変わる高齢者ニーズに応じて、住居、生活サービス、介護、看護、医療サービスなどを総合的に提供していく施設サービスのシステムを指します。入居者は運営母体との間で契約を結び、入居一時金と月額利用料を払うことでサービスなどを受ける権利をもつことができます。



米国のCCRCの例：

10年かけて創り上げたCCRC

廃校になった大学のリノベーションから始まった

自立型：1,599室 支援型：132室 介護型：260ベッド

<参考資料> CCRCの概念を応用した日本の高齢者ケア

② CCRCの特徴

CCRCは100年以上前に誕生し、1900年にはおよそ20ヶ所しか存在していませんでしたが、2007年には全米に1,861ヶ所、745,000人が居住していると報告されています。広いキャンパスに住宅や各種施設が点在する郊外型から、市街地のビルに施設がある都市型まで、様々な形態があります。しかしながら、高齢者が年齢を重ねると変わってくるニーズに合わせて住宅サービスやケアの対応を行うところは共通しています。すなわち、住民は自立して生活できる段階から、寝たきりで特別な介護が必要な段階を通して人生の終局まで、同じコミュニティ内で生活できるのです。

③ 高齢者コミュニティ「CCRC」の3つの住まい

CCRCでは入居者の健康レベルに応じ、3つのレベルの住まいが用意されています。

- ・自立型住まい（IL） 健康・自立

自立型住まいは、生活住居スペースで、共同住宅形式が主流である。ここでは食事サービス、様々な娯楽文化サービスと、病気、寝たきりにならないための保健・医療サービスが提供されている。

- ・支援型住まい（AL） 介護度：小・中

支援型住まいは、入居者が生活支援、介護支援が必要になったとき、健康型住まいから移り住む施設で提供される。衣服の着替え、投薬、入浴介助、その他生活に必要なサービスが提供されている。

- ・介護型住まい（NH） 介護度：大

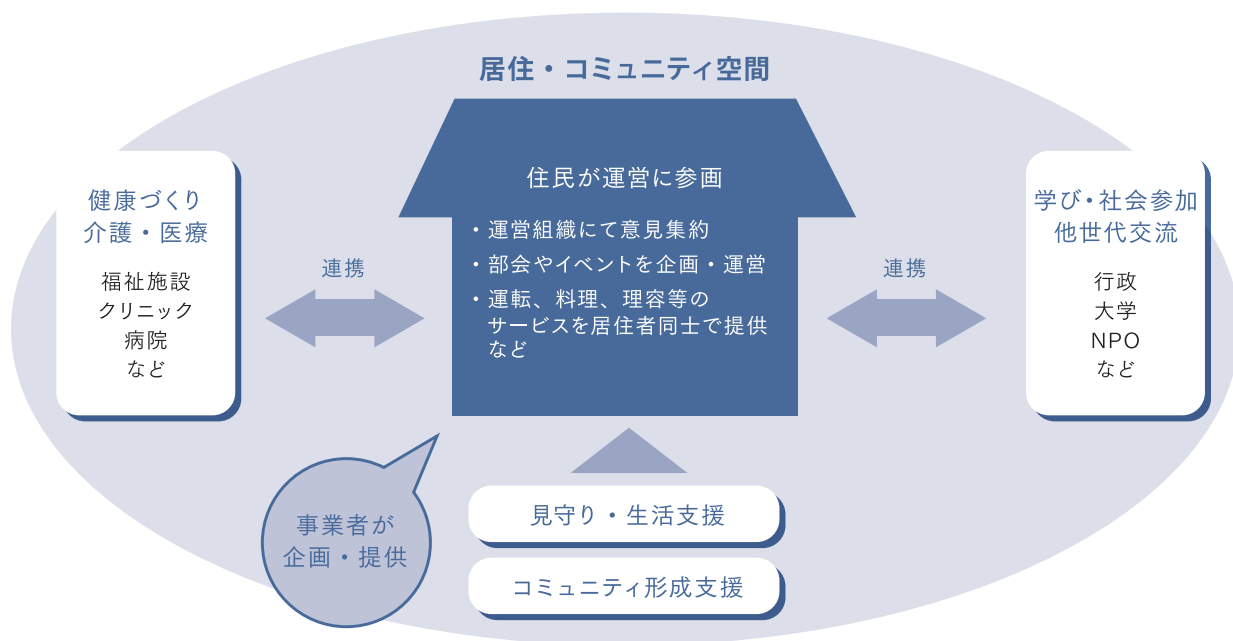
介護型住まいは、常時介護が必要な入居者のためのものである。24時間体制を必要とする短期、および長期の看護、医療サービスを提供する施設である。

札幌版 CCRC

① 札幌版 CCRC について

札幌版CCRCとは、高齢者が安心して健康で元気に暮らし続けることができ、多世代のための「担い手となる」ことを基本とする仕組みが整った新たな住まい・コミュニティのことです。

札幌版CCRCでは、事業者によって居住・コミュニティ空間が提供され、居住者は見守り・生活支援やコミュニティ形成の支援を得ることができます。また、行政や大学など地域との連携により、生涯学習や社会参加、多世代交流の機会があり、介護・医療機関との連携により、健康づくりや介護・医療サービスを得ることができます。そして、雇用面でも、公的保険外サービスである介護予防、認知症予防、健康維持・増進、社会参加、多世代共創など多面的な雇用を創出する効果が期待できます。



<参考資料>サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策提言

札幌版CCRCと従来の高齢者住宅との比較では、札幌版CCRCは従来の高齢者住宅とは全く異なる住まい・コミュニティです。居住者は健康な状態で入居し、安心して暮らし、健康を維持、増進することのできる様々な支援を受けることができます。居住者によるコミュニティや自治組織が形成され、居住者はサービスを受けるだけの人ではなく、運営への参加などコミュニティの担い手となります。また、札幌版CCRCは高齢者だけの閉ざされた場所ではなく、コミュニティは地域に開かれており、多世代が集い、共創する仕組みが構築されています。

	従来の高齢者住宅	札幌版 CCRC
入居時の健康状態	具合が悪くなってから	健康なうちに
入居動機	不安だから	楽しみたいから、役立ちたいから
事業収益視点	公的保険に依存	公的保険に依存しない
地域接点	地域との接点なし	地域に開かれたコミュニティ
世代視点	高齢者だけのコミュニティ	他世代共創型コミュニティ
建物	新規に新築	可能な限りストックを活用
居住者の位置づけ	支えられる人	担い手、共助する人
居住者の自治組織	無し	有り
関連雇用	公的サービス中心	公的保険外サービス中心

<参考資料>サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策提言

03

Mini story "Sapporo of 2030"

ミニストーリー「2030年のサッポロ」

健康・つながり・いきがい・安心が充足された「ある一日」

少子高齢化が他の地方都市よりもはやく進む札幌。人口減少で地域は疲弊し、少子化で大学では定員割れで苦しんでいるかと思いきや……。あるコミュニティではキャンパスの中からシニアと若い世代の笑い声が聞こえてくる。近づいてみるとキャンパスにはシニアが住んでいる。シニア学生と現役学生の企画したイベントに、近隣の保育園児が集まり紙飛行機を飛ばしている。紙飛行機の作り方を教えているのは、このキャンパスで暮らすアクティブなシニアで製造業の技術者だったようだ。ここではシニアも大学に通う。あるシニア女性は大学の生涯学習プログラムで、栄養学を身につけ、園児や学生の昼食づくりに忙しい。このコミュニティでは、身体が弱っても他に移ることなく同じ敷地内で健康状況に応じたケアが受けられるので、健康な時から終末期まで誰もが安心して暮らしている。そして支えられるのではなく、コミュニティの担い手になることが基本理念である。居住者の健康寿命を可能な限り伸ばすために、食事、運動、予防医療、健康ビッグデータの解析、生涯学習、仕事が緻密に組み込まれている。介護以外の分野で大きな雇用が生まれており、健康データを解析するデータ・アナリストは、学生が憧れる花形職業のひとつだ。この大学の卒業生の多くは、まちを出ることなくこのコミュニティで就職先をみつけている。新たなコミュニティが新たな雇用を創出しているのだ。以前は「長生きリスク」と言われ、長生きが問題であるかのように言われた時代もあったが、現在は検診の数値が改善されれば、健康保険料の減額や金利が上がる預金等のインセンティブが人気だ。他世代が集い、学び、働き、住まう。居住者の健康寿命が延伸され、地域の担い手となり、まちが生き生きと輝いている。高齢者だけでなく多世代が輝き、ひとつの施設だけではなくまち丸ごとで健康時から終末時まで継続的にケアが担保され、安心して暮らし続ける。この風景は、札幌版CCRCが実現したサッポロの姿である。

04

Sapporo version CCRC basic functions

札幌版CCRC基本機能

①居住機能

札幌版CCRCは、居住者が健康時に入居し、自立した快適な生活を送ることができる居住空間を基本とし、事業者による見守りや要介護状態になった時にもできる限り在宅で暮らし続けることが可能となるよう、安心、安全を担保する設備が備わっています。

②健康・医療・介護機能

居住者は、介護予防、認知症予防、健康維持・増進のための支援を受けることができます。また、介護や医療が必要になった場合には、在宅を基本とした支援を受けることができます。事業者は、自治体、介護・医療機関等と連携し、居住者ケアのための仕組みを構築します。

③コミュニティ機能

札幌版CCRCでは、居住者を中心としたコミュニティが形成される。居住者は委員会、自治会、評議会等の組織に参加し、運営に積極的に関与します。また、地域コミュニティとの連携により、まちづくりにも積極的に関与します。事業者はこれらのコミュニティ形成を企画、支援します。

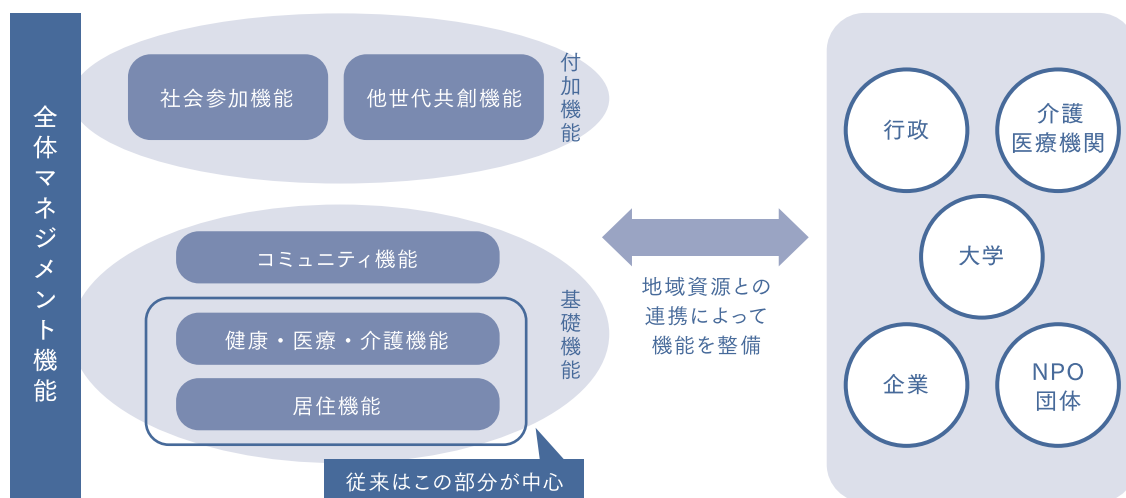
また、札幌版CCRCには、居住者が共同で利用することができる会議室や図書館、地域住民も利用することができるコミュニティ食堂等の空間が備わり、コミュニティ形成を促進します。

④社会参加機能

居住者には、仕事、ボランティア、生涯学習、子育て支援、学生・留学生のホストファミリー等、多様な社会参加の機会が設けられています。事業者は、自治体、地域のNPO、近隣の大学などと連携し、それらの機会を創出します。

⑤他世代共創機能

札幌版CCRCでは高齢者だけではなく多世代が集い、共に支え合う仕組みが構築されています。事業者は地域の特性を踏まえ、高齢者と学生が共に学ぶ、学生がコミュニティでボランティア活動を行うことを条件に安価な家賃で住もう、高齢者が近隣地域の子育てを担うなど、多世代が参加し、支援し合う機会を設けます。



<参考資料>サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策提言

第6章 アクションプラン

01 Business person

事業者（企業）

① 長生きリスクから健康インセンティブへ

事業者にとって居住者の長生きが経営上のリスクとなる「長生きリスク」という言葉があります。しかし今後は、「健康寿命を延伸させる」ことが収益源になる健康インセンティブを目指します。それには予防医療、健康ビッグデータ解析、生涯学習、社会参加を緻密に組み込んだプログラムを開発し、居住者がこれに価値を見出し、対価を支払うことにより、新たなビジネスや雇用を創出することにつながります。

② 1%の視点による創造型需要の創出

創造型需要とは顕在化していない潜在ニーズを取り込んだ需要のことです。日本版CCRCを当初積極的に選ぶのは1%、100人に1人と考えた方が良いでしょう。団塊世代660万人の1%の約7万人が1千万円を消費すれば約7千億円の市場が創出される。この1%層が初期市場を形成し、次の消費者が動き出すことにつながります。

③ スtock活用による多様な商品開発

事業者にとって土地購入や新規建物費用はコスト増加要因であるが、既存の公共施設、撤退した大型商業施設、老朽化した団地、移転キャンパス、廃校、空き家、社宅など多数の再利用可能なストックが存在します。それらをリノベーションすることで初期の建築費コストを抑えることが可能であり、結果として多様なユーザーの多様なニーズに合致した幅広い商品群を提供することにつながります。

02 Self-governing body

自治体（行政）

① 行政の縦割り排除

札幌版CCRCは関係所管部局が連携して総合的政策として推進していく必要があります。札幌版CCRCを実現させる政策を推進するには、縦割りを排除して、関係部局横断のタスクフォースやプロジェクトチームを設置する取り組みと共に、市長主導の強力なリーダーシップが重要になってきます。

② 手続きのワンストップ化

札幌版CCRCを推進するには、自治体でのワンストップ型の手続きを準備する必要があります。事業者が自治体で申請手続きを行う場合に、施設系、福祉系など複数の部署でそれぞれ手続きを行うのは効率的ではありません。各種手続きをワンストップで進められる部署や制度を創設することが望まれます。

③ 多様な対象者及び住宅ニーズに応えるための既存ストックの活用

廃止あるいは未利活用の公共施設等を札幌版CCRCとして有効活用を図っていく場合には、多様な対象者及び住宅ニーズに応える住宅政策の一環として捉えることが必要となります。

④ 迷惑施設としての先入観払拭と合意形成

札幌版CCRCの検討においては将来の医療・介護費用が激増する、新住民と旧住民で摩擦が起きるといった迷惑施設としての先入観が強いことから自治体内部から反対意見が出てくる可能性があります。しかし、札幌版CCRCは健康維持・増進と将来の医療・介護費の適正な抑制を目標としています。さらに、長期的にみれば、人口増、消費増、雇用増、税収増を通じた大きなメリットが得られます。総合的政策として多面的な視点から検討を行い、適切な合意形成を図る必要があります。

03

University

大学

① 札幌版CCRCを通じた大学の地域貢献

札幌版CCRCは介護だけでなく、健康支援、健康データ解析、食事、運動、生涯学習プログラムなど多様な雇用が生まれます。卒業生のインターン先、将来の就職先としても有望です。大学には、自大学卒業生の活躍の場開拓(雇用創出)として札幌版CCRCの活用を推進します。

② 札幌版CCRCを通じた超高齢社会の新たな大学モデルの構築

少子化・財政悪化の二重苦に直面し、大学は学納金収入・公的補助以外の新たな収益源を獲得することが必要とされています。札幌版CCRCを通じた社会課題の解決、居住者の社会参加・多世代共創ニーズ欲求へ対応し、超高齢社会における新たな大学モデルとする必要があります。

04

Inhabitant

住民（市民）

① 積極的なコミュニティ参加

札幌版CCRCを通して積極的にコミュニティ参加し、地域に暮らす住民がまちづくりの担い手として自覚と責任をもつことが必要になります。

② 高齢者の地元住民との積極的な共働

高齢者が地域の子育て世代に対するアドバイスや困った時の世話、地域住民が集う場での喫茶店運営などを実施する互助のビジネスモデル化を図ることが重要となってきます。

05

Junior chamber international sapporo

札幌青年会議所

① ひととひとをつなぐコーディネーターとしての役割

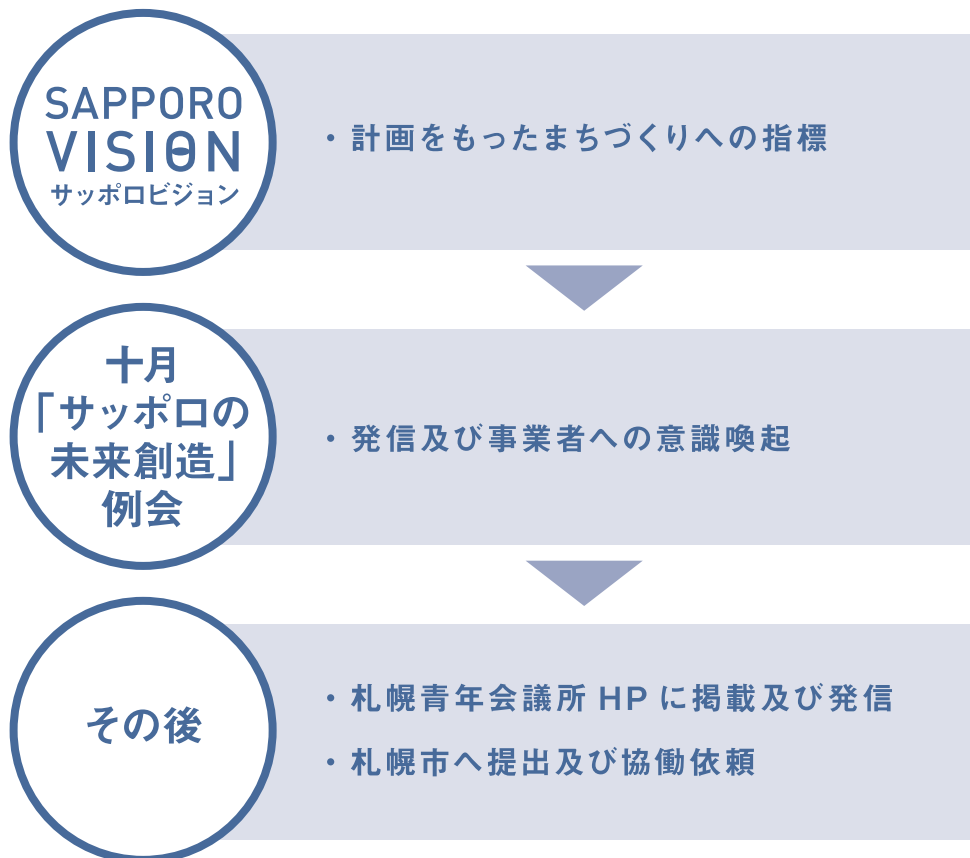
地域のこと、まちづくり、福祉などに関する知識を活用してひととひとをつなぐコーディネーターのような役割で札幌版CCRCを推進していく必要があります。

② 情報共有・情報交換の場の提供

札幌版CCRCは新しい社会システムのためノウハウが未確立です。今後札幌版CCRCへ取り組むためには、それぞれの立場の関係者と情報共有・情報交換が必要となります。そのための場を提供することが大事となってきます。

③ サッポロビジョン活用フロー

札幌青年会議所では2030年に理想のまちサッポロを実現するためにサッポロビジョンを下記のように活用し、サッポロを実現させたいと考えています。



第7章 おわりに

札幌版CCRCが民・学・公・産の四方一両得になる超高齢社会の課題解決モデルとして有望なものであることにご理解いただけましたでしょうか。日本ではコミュニティの崩壊と言われて久しいですが、状況は札幌でも同様です。今ほど絆やつながりが重視されている時はなく、また地方創生と新産業創出に注目が集まっている時ありません。

超高齢社会はピンチではなくチャンスと捉え、札幌版CCRCを成し遂げることで、人が輝き、地域が輝く札幌を目指していきましょう。そうすればきっと、2030年には理想のまちサッポロが実現するはずです。

〈参考事例〉

シェア金沢

- 総面積約 11,000 坪の敷地、「高齢者施設」、「大学施設」、「児童入所施設」が共存するコミュニティ。
- 居住者が共同で店舗を運営し、自分たちが必要なものを仕入れ、販売を担当する居住者が「担い手」となる。
- 学生はボランティア活動を入居条件として家賃を低価格にし、コミュニティへの参加を促す「仕掛けづくり」

所在地	石川県金沢市若松町（香林坊から車で 12 分）
事業主体	社会福祉法人佛子園
規模	総面積：約 11,000 坪
費用例 （一人の場合）	家賃：85,000 円／月（42 m ² ） 共益費：20,000 円／月、状況把握・相談費：15,000 円／月



SOUTH 地区	MIDTOWN	NORTH 地区
S-1 天然温泉	M-1 児童入所施設	N-1 日用品・生活雑貨 若松共同売店
レストラン	M-2 サービス付き高齢者向け住宅	N-2 ボディケア 金沢東山ゆらり
EAST 地区	M-3 サービス付き高齢者向け住宅	N-3 プータン・セレクトショップ
E-1 児童入所施設	M-4 学生向け住宅	N-4 グルーヴィ
E-2 児童入所施設	M-5 学生向け住宅	N-5 Bar Mokka
E-3 S-ステーション	M-6 学生向け住宅	N-6 加藤キッチンスタジオ
E-4 クリーニング	M-7 学生向け住宅	WEST 地区
E-5 バックヤード	M-8 車イス使用者向けバリアフリー住宅	W-1 アトリエ付き学生向け住宅
E-6 児童発達支援センター	M-9 サービス付き高齢者向け住宅	W-2 サービス付き高齢者向け住宅
E-7 地域スポーツシステム研究所	M-10 学生向け住宅	W-3 サービス付き高齢者向け住宅
E-8 NPO 法人ガイア自然学校	M-11 学生向け住宅	W-4 ウクレレパイン金沢
E-9 アトリエ付き学生向け住宅	M-12 児童入所施設	
E-10 全天候型グラウンド	M-13 サービス付き高齢者向け住宅	

【利用者の声】

- Share金沢は色々な世代の人と関われる。建物も木造で温かい感じが気に入りました。
- 自分の生活圏を（買い物、医療、友達など）を変えることなく安心付きの暮らしを確保できています。
- ライブハウス、カフェ、キッチンスタジオ、リラクゼーションのほか、温泉やレストランを利用することが楽しみです。
- 他の高齢者施設も多く見学したが、介護度の高い高齢者が多く、自分はまだ元気なので抵抗感があったが、ここならそういったことを感じずに暮らすことができる。
- このまちなら働くことができるかもしれない。

【参考資料】

サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策研究会 / 三菱総合研究所 / 日米不動産協力機構 / 著
「サステナブル・プラチナ・コミュニティ政策提言」

日本版CCRC構想有識者会議 事務局 / 著「日本版CCRC構想を巡る状況」

日本版CCRC構想有識者会議 事務局 / 著「日本版CCRC構想基本コンセプト」

日本版CCRC構想有識者会議 事務局 / 著「第1回会合における論点ごとの主な議論」

三菱総合研究所 主席研究員 松田智生 / 著「日本版CCRC実現への視点」

社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷良成 / 著「福祉で描くコミュニティ・デザイン」

